

10. 人権教育に効果的な教材とは何でしょう

1. 地域のすぐれた教材

宝塚には豊かな自然と歴史、そして人々の生きてきた証が数多く残されています。子どもたちがそんな地域を探索することは、いろいろな発見ができるすぐれた教材を学習することとなり、大変意義深いものです。また、地域の歴史や産業、自然を取り上げて教材化し、子どもの実態や発達段階を踏まえて活用することは、「ふるさと宝塚」を大切にすることにもつながります。

学習教材に役立つ書物や作品については、宝塚では過去から地域の人たちや先生たちによっていろいろと作られてきました。例えば「おもしろい宝塚のむかし話」（宝塚文藝の会）、「宝塚の民話」（宝塚市・宝塚市教育委員会）、「小浜宿」（小浜の町並みを愛する会）、「宝塚の文化財」（宝塚市教育委員会）、「宝塚の歴史」（たからづか学校応援団）、「米谷東の力 わたしたちができたこと」（米谷東郷土学習会）、「人権文化センターの役割」など多数あります。

さらに、各学校園には手作りの地域教材も作られており、今後もそれらの教材の活用範囲が広まることを願っています。

2. 外部講師の講話やふれあいの教材

宝塚の子どもたちは、十数年前から「みんなの先生」の愛称で地域の方々から授業を受けたり、「ようこそ先輩」で地理・歴史・科学・スポーツ・芸術・芸能などを教えてもらったり、見せてもらったりしてきました。これらの貴重な経験や体験は子どもたちに自分の生き方を振り返らせ、地域の良さを発見するとともに、人権課題と真剣に向かい合わせる機会となっています。

また、地域の人たちや人権課題に直接関わる人たちから発せられたメッセージは、子どもたちの生活課題と結びついて、深く考える力を培い、自ら見つめ直させる生きたすばらしい教材となっています。

さらに、部落問題学習での差別体験や闘いの話、「シンシアのまち宝塚」でなじみの介助犬との出会い、また盲導犬と共に歩んでおられる障がいのある方の話、原爆や戦争被害にあわれた方々の体験談や平和への話、LGBTQ+当事者の体験談などは、多くの学校園所で子どもたちが学ばせていただいています。

このような直接に人と人がふれあう学習は、人権上の配慮に基づいた十分な事前指導が欠かせないことはいうまでもありません。そのためにも、先生方が講師の方と入念な打ち合わせを行うことを怠らないようにしていきたいものです。

そして、今後とも宝塚の子どもたちのためにご協力をお願いしていきたいものです。

3. 生命の大切さに関する教材

宝塚においても残念ながら、現実として自死・いじめ・虐待・犯罪被害・問題行動など、いろいろな事象が起きてきました。これらはすべて命との関わりがあります。生命の大切さについての指導を行うに当たっては、できるだけ共に生きる喜びやその大切さが心の中に深化できるような教材の活用が望まれます。ただ単に「いのちは大切だ」と言葉で教えるだけでなく、発達段階を踏まえて、生きることを肯定するような建設的な内容の教材を多く利用していくことが大切です。

そのことによって、宝塚の教育がめざす「人を大切に」「自分を大切に」できる人間愛に満ちた人間育成を促していきたいものです。

4. 保護者や地域関係者と共に作る教材

子どもと関わる大勢の人たちとの協働による教材の開発は、学校園における人権教育への理解を深めるとともに、共に子どもを育てるという人権教育の基盤づくりにもつながるものであり、意図的に設定していきたいものです。

幸いに宝塚市では教育総合センターに優れた書物や教育機器、視聴覚教材作成のための機材が整えられており、作成に協力してくれるスタッフもいます。

今後とも、子どもたちにとって有意義な教材を数多く作成していきたいものです。

さらに考えたいことは、教材作成に子どもたちを参画させていくことです。子どもたちは先生方もご存じのように、素晴らしいアイデアや大人が思いも付かない才能を発揮してくれます。本来、「わたしたちが作った作品は」は「何よりも優れた教材」なのです。

5. 感性に訴える視聴覚教材などの活用

人権に関する映画・ビデオ・DVDなどの視聴覚教材は、子どもの感性に訴える教材としてかなりの効果が期待できています。読み物資料も視聴覚教材として再編集することにより、子どもの関心を高め、学習効果を向上させることができます。

DVDについては、20～21 ページにもあるように宝塚に多数の人権・同和学習に役立つ作品があり、おおいに活用したいものです。活用にあたっては、ただ単に子どもたちに視聴させるだけではなく、効果を上げるためには先生方が必ず事前鑑賞を行い、きっちりと指導の流れに組み入れたいものです。

また、「人権劇」は毎年、宝塚の解放文化祭で子どもたちが演じています。テーマは身近な人権問題です。子どもたち自らが演じることで意識を高めるだけでなく、観劇する側の子どもたちにも効果的な学習教材となっています。学校の授業の中にも積極的に取入れたいものです。

6. 指導目標に合わせた作品教材の選定

人権学習には部落問題学習をはじめ、障がい者問題、女性問題、高齢者問題、在日・外国人問題、さらにはいじめ、平和、貧困、公害、環境、情報化社会、性的指向、震災問題、新型コロナウイルス感染症、ハンセン病、HIV、アイヌの人々等、たくさんの課題学習があります。

そこで重要かつ間違っはならないのは、扱う課題解決のためにはどの作品教材が適切かの判断です。例えば、年間計画の「部落問題」の項目に「だめだめネコはこまったゾウ」や「だいこんとにんじん」を取り上げられているのが見かけられます。

これらの教材の主題は「ありのままを受け入れる仲間づくり」であったり「個性や違いを認め合う」です。ここに部落差別を重ね合わせることは適切ではありません。部落問題の捉え方を指導者自らが間違えて教材を選定してしまうことは、その問題の本質を見誤り、子どもたちに間違った教育をしてしまうことになります。

作品教材の検討は学校園内全体や学年団でしっかりと行っていかななくてはなりません。特に部落問題学習の教材については、22 ページに載せています「部落問題とその他の人権問題との違いはどこでしょう」を参考に十分研究検討してみてください。

7. 人権・同和教育からの視点

13～17 ページに記載した教材は、人権の感性を培う教材（作品）として選考したものです。これらの教材を扱うときも、道徳の教科書の教材を扱うときにも大切なことは「人権・同和教育の視点」から教材を解釈していくことです。例えば、教科書にも載せられている「二わのことり」を学習させるときに「みそさざい」は友だち思いの良い子と教えるのではなく、どうすれば本当の仲間づくりができるのか考えさせることが主題となります。そうでなければ「みそさざい」も「やまがら」も後日「いじめ」の対象になりかねません。

すぐれた教材は単なる心がけや、どちらが正しいかを教えるものではありません。作者の意図を深く読み解き、人としての生き方、他者を考えた行動、特に差別されている、疎外されている側に立っていることを捉えることが重要な視点となります。

8. 友だちや身近な人たちの作品は優れた教材

日本には優れた読み物がたくさんあります。特に文学作品の中には数十年も幼稚園や小・中学校の教室で読まれたり、教材として使用されたりしてきたものがあります。

一方で、子どもたちの身近にある作品は興味や関心を高めるために効果的であり、十分に子どもたちの心に迫るものとなります。特に宝塚市人権・同和教育協議会が毎年、子どもたちや市民から募集して、選考入選された作品は毎年、作品集として配布されており活用しやすいものとなっています。

また、法務局で入選した子どもたちの作品も、同じく宝塚の先生方によって推薦されるもので、多くの学校で身近な教材として活用されています。

9. 人権・同和参観を通じての教材

宝塚市の公立学校では、かなり以前から同和参観授業を行ってきました。最近では人権・同和参観あるいは人権参観日として全ての小学校、および一部の中学校で開催されています。

参観を実施するに当たっては、ただ単に授業を公開し、通常の懇談をするのではなく、学校の人権・同和教育の目標を明確にした上で、先生方が授業の組み立てや使用する教材など具体的な内容と懇談の中味について、共通理解を図って実施することが重要です。そのことによって、参加した保護者への人権・同和问题の啓発活動にもなるわけです。

また、参観授業では保護者の参加型形態を積極的に取り入れたいものです。そのためには、子どもたちと共に参観者が学び合える教材を選定して、授業の流れを構成してください。授業を終えて子どもたちも参加した保護者たちも「あゝ良かった、楽しかった、学べて良かった」との思いが残る授業にしてください。そして、授業者のあなた自身もそう思えるものにしていってください。

先生日記

教室での子どもたちとのひととき

「先生 なんで先生になったの？」

「そうだな～ あなたがいてくれるからかな」

「先生 なんで男と女がいるの？」

「え～と あなたが生まれてくるためだと思うよ」

「先生 きょう 友ちゃん休んでいたね」

「どうしたのかなあ 帰りしな一緒にお家に行こうね」

「先生 どうしたらいじめなくなるのかなあ？」

「その気持ちがあれば きっとなくなるよ」

「先生 涙はどうして出るの？」

「あなたに優しさがあるからだよ」

「先生 地震ってなぜおこるの？」

「みんなと同じように、地球も生きているんだよ」

「先生 誕生日ってお祝いしてくれるかなあ？」

「ううん 誕生日はお祝いしてもらう日ではなくて、お母さん、お父さん、家族に感謝する日だよ」

「先生 サンタクロースって本当にいるの？」

「ああいるよ。あなたの心の中にね 見えないものこそ本物だよ」

「先生 お年玉ちょうだい」

「あげるよ 先生のポケットに手を入れてごらん」

「先生 学校って楽しいね」

「そうなの あなたが楽しければ、先生も楽しいよ」